雖も、之を統治する者あるに非らず、單に彼等の中に、古來傳承したる同一の口碑、風俗、國語、偶像崇拜の宗教あり、て僅に彼等を支配したるに過ぎざるなり。

亞刺比亞人の住居したる土地は、一望萬里、渺茫際涯なき、所謂亞刺比亞の大沙漠にして、天然の風物、單調なるのみならず、地は荒れて農耕に適せず、又外部の感化を蒙ること少なきが故に、此境に在る者は、獨り天然を友とし、同族を侶とするより外なかりき。

然り、斯る荒野に生息する亞刺比亞人には、何等宗教上、道德上、純潔なる趣味を有せず、日夕彼等の行ふ所は、掠奪と私鬪、復仇等に過ぎずして、其の好む所は、酒色の歡樂なりき。唯〻僅に毎年一箇月間、其の私鬪復仇の慘劇を中止する時期あり。即ち此の時期の間に於てのみ、平素反目嫉視せる者も、手を携へて、所々の靈場を參拜し、隨て同期間は、沙漠の隊商も、亦掠奪さるゝ虞なく、安全に旅行し、互市を行ひ、相集りて置酒歡樂を偕にするを得たり。

西暦五百七十年、亞刺比亞のメッカに、マホメットは產れたり。マホメットの名は、或はムハメットとも云ふ。ムハメットとは、亞刺比亞語にて、救主の意、蓋し國人